

先生方が各クラスをまわる交流道徳をしています。

学年の先生方が教材を通じて思いを伝える道徳を1学期から実施しています。2学期中に3周目が終わりました。人が違えば人生も、考えも違う。各先生方が投げかけた問いにみなさんは、どう感じ、どう考えたでしょうか。(※3学期も実施予定です。)

教科書に出てくる登場人物の置かれた状況や、直面している課題は、みなさんが今知っている世界の範囲の「ごくわずか」です。より自分のこととしてとらえた言葉を、これからも「こころのあゆみ」にたくさん記せるようにしましょう。

- ① 横幕先生: A(4)「高く遠い夢」 D(21)「ハッチを開けて、知らない世界へ」
 - ② 大塚先生: A(2)「スマホに夢中」 C(10)「二通の手紙」
 - ③ 松浦先生: B(8)「合格通知」
 - ④ 木元先生: A(5)「日本から世界へ、そして宇宙へ—インスタントラーメンの誕生」
D(19)「生まれてきてくれてありがとう」
 - ⑤ 野崎先生: A(3)「ぼくにもこんな「よいところ」がある」 C(15)「受けつかれる思い」
 - ⑥ 佐藤先生: C(17)「花火と灯ろう流し」 D(20)「よみがえれ、日本海」
 - ⑦ 濱崎先生: B(9)「しあわせ」 C(12)「加山さんの願い」
 - ⑧ 鈴木先生: C(15)「島唄の心を伝えたい」

2学期の道徳科の授業をふり返りました

先日、2学期の道徳の授業での学びについて、人ひとりの生徒にじっくり考えてもらう時間をとりました。2学期の道徳の授業にそれが思いを馳せながら、心に残った教材、道徳科の授業で学んでよかったこと、そして、3学期に向けて取り組みたいことなどを考えてもらいました。子ども達が書いたふり返りのシートには、それが、心を使ってしっかりと考えてきた足跡が、たくさん残っていました。

〈子どもたちのこころのあゆみより〉



今まで「みんなそれぞれ違う」ということを小学校や中学校でたくさん学んできて、今回の授業では「しあわせ」を考える上でたくさんの考えがあったことから、再び価値観の違いを感じることができました。友達の考えにあった「違和感を感じない」という意見のように、価値観の違いを分かった上で、いろんな人がいることを常に頭に入れておきたいです。

この話を読んでみて、確かに自分もどこかで「支えている、支えてあげている」という意識があったことに気づけた。支え合い、協力は当たり前で自然なことだと知れたから全員が同じ立場だと意識していきたいと思う。ボランティアもしたことがないので挑戦したいし、大きく動かなくても細かい意識を変えていけるようにしたい。

私は正直、地域の取組や行事にあまり積極的に参加していませんでした。でも、今日の授業で花火には人の心を動かし、気持ちに区切りをつけるという大切な意味があることを知り、「行事の知識をつける」→「参加する」→「発信する」をしていきたいです。

今日の授業で、理解することと実際にしてみることは違うということが理解できました。これからも、理解するだけで終わらないようにして本当にやってみたいです。